

第24期第5回理事会議事録

日時：昭和63年5月18日（水）18：00～20：45

場所：千葉県柏市市民文化会館

出席者：理事：山元、関口、浅井、河村、荒川、松野、村上、能登、土屋、中村、重原、菊地、田中、武田、廣田、岡村、石島、

監事：相原、浜田

オブザーバー：山崎、田中（気象大学校）

議事

報告事項

1. 第24期16回常任理事会の議事録は一部修正の上確認された。

2. 各委員会報告

審議時間の都合で、各委員の報告は資料に基づくことで省略された。資料の中で主なものは次のとおり。

「庶務」

(1) 文部省学術国際局長から昭和63年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付内定通知があった。

(2) 「風に関するシンポジウム」共催依頼があった。

(3) 沖縄大学に関するアンケートが示された。

(4) 会員名簿データベース作成（4月1日現在）

「天気」

故小野晃会員の紙碑は天気6月号に掲載予定。

「国際交流事業」

63年度前期の研究集会補助の申請が認められたもののうち1名の辞退があった。

「講演企画」

日本気象学会賞の時岡達志会員の記念講演は秋季大会（仙合）で行いたい。また、堀内基金奨励賞受賞者の記念講演も秋季大会で行いたいのので、時間などについて東北支部と協議する。

「その他」

監査結果が報告された。

審議事項

1. 会員の新規加入について

個人会員市川 寿ほか16名1団体の新規加入が承認された。

2. 昭和62年度事業報告および決算報告

昭和63年度事業計画案および予算案

予め各理事に届けてあった資料のとおり承認された。

3. 1990AHU（アメリカ地球物理学連合）の総会協力資料に基づいて理事長から説明があり、また、浅井理事から1987年バンクーバーで開催されたIUGG（国際測地学地球物理学連合）出席の時のAGU会長の話など背景説明が行われた。財政負担などはっきりしない点もあるが他の学会とも協調し基本的には協力することで意見が一致した。

4. 藤原賞委員会からの意見について

資料に基づいて、審議が行われた。提案は二つあって

1) 藤原賞の規定には「1件を選び」と限定してあるが、「原則として1件」と改正してはどうかの提案については、基本的には多数の賛成が得られた。しかし、賞を創設した精神は1つという事であったのではないか、という意見があり、今後評議員会などに諮った上で総会に提案して行くことになった。

2) 学会賞、藤原賞とは別に優れた応用研究、技術研究を表彰することを考える必要がある。との提案については、学会として応用技術的色彩の強い研究も評価・奨励していく必要があり、学会技術賞（仮称）を設けても良いのではないかという意見がでた。そのためには、過去の研究で対象となるもののリストアップするなどして具体的なイメージを得る必要がある。また、他の賞との関係も詰める必要がある等の意見がでて次期理事会に引き継いで検討してもらうことになった。

5. 日本学術会議、研究連絡委員会など第14期委員の選出について

資料に基づいて理事長から説明の後審議が行われた。IAMAPなどを想定して人選は、現在の委員が対処することとした。

6. 気象集誌の印刷方式その他

印刷方式の変更は業者の対応などを考慮して64年（67巻1号）からにする。その際、同時にB5からA4サイズに変更し、表紙のレイアウトも変更したい。タイトル、内容も気象などから気候・海

洋物理などに領域を広げて行くなど編集方針もかえる予定であるなどの提案が承認された。

7. 大会当番について

昭和64年度の春季大会は気象庁(観測部)、秋季

大会は沖縄支部で担当することが承認された。沖縄大会については、初めての事であり財政面を含め、できる限り支援することが承認された。

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
関西支部第10回夏季大学	昭和63年8月1日 ～3日	日本気象学会関西支部	大阪府立労働センター	Vol. 35, No. 6
国際オゾン・シンポジウム	1988年8月8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッテンゲン (ゲッテンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
Postgraduate Summer School on Microwave Remote Sensing for Oceanographic and Marine Weather-Forecast Models	1988年8月14日 ～9月3日	EARSeL	イギリス・スコットランド Dundee 大学	
国際放射シンポジウム	1988年8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
第6回エアロゾル科学・技術研究討論会	昭和63年8月23日 ～25日	エアロゾル研究協議会	大阪市立労働会館	Vol. 35, No. 2
数値モデルの系統的誤差に関するワークショップ	1988年9月19日 ～23日	WMO	カナダ・トロント	
月例会「長期予報と大気大循環」	昭和63年9月28日		気象庁	Vol. 35, No. 5
The 2nd International conference on Atmospheric sciences and Applications to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	Vol. 35, No. 5
第26回粉体に関する討論会	昭和63年10月27日 ～29日	同討論会	石川県社会福祉会館	Vol. 35, No. 4
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4
第10回風工学シンポジウム	昭和63年12月1日 ～2日	同運営委員会	東京・中央大学理工学部	Vol. 35, No. 4
風に関するシンポジウム	昭和63年12月9日	日本農業気象学会	つくば市・農業環境技術研究所	Vol. 35, No. 6
月例会「レーダー気象」	昭和63年12月20日		気象庁	Vol. 35, No. 7

編集後記：本号がお手許に届けられる頃には、梅雨も明け太陽の季節となっていることでしょう。この原稿を書いている6月末の段階では、今梅雨は全般的に小雨傾向で、特に東北から北陸地方にかけかなり少ない模様です。

6月中旬から東シナ海を中心に、梅雨前線の特別観測が実施されています。この観測は、気象衛星、観測船、レーダー等を用いて、梅雨前線を立体的に観測することにより、集中豪雨のメカニズムを明らかにしようというものです。この詳細な観測、解析結果が本誌に掲載され、今後の防災活動に大きく貢献することを期待します。

先の国会で「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」が成立、5月20日公布施行されました。この法律の成立には本号「会員の広場」で話題となっているオゾンホール発見が大きな役割を果たし、このオゾンホール発見には、20数年にわたる日本の南極におけるオゾン観測と、忠鉢氏の研究が大きな役割を果たしていると言えます。

編集委員会では、内容の充実と、そして広く会員のみなさんに親しまれる「天気」作りのためにアンケートを実施する計画です。「会員の広場」も同様の目的の欄ですが、改めて筆を持つのがおっくうなあなた、準備されたハガキに書くだけどしどしご意見をお寄せ下さい。(O)